

「志望動機」がテーマの小論文

(例：通信設備の製品を作っている会社を受けるとき)

貴社を志望した理由は3つあります。1つ目は、事業分野の中心に通信設備の開発・製造・保守があったことです。特に、一般の人が使う携帯電話の回線網を構成する機器を、開発・製造・保守しているというところに、私の力を発揮できるのではないかと考えています。

2つ目は、貴社が地域に根差した経営・事業運営をされていることです。以前より、生まれ育ったふるさとであるこの地域で働きたいと考えており、腰を落ち着けて仕事ができると考えています。

3つ目は、新しい事業分野として、通信設備に強いことを生かした遠隔監視・データ解析システムの開発に取り組んでいることです。

1つ目について、携帯電話の回線網は、現代では生活になくてはならないものです。普段の生活でももちろん携帯電話がないと困りますし、地震や津波などの甚大な災害時であっても、携帯電話がつながることが求められるようになってきました。これは、携帯電話の回線網を構成する機器がダウンしてはならないということでもあります。

私は、通信設備ではないものの、電力関係の設備保全の経験があります。今は電気がないと、工場やオフィスは動きません。電力関係の設備も通信関係の設備と同様に、ユーザーからは常に電力を供給し続けることを求められています。そのため設備をダウンさせないこと、万が一設備がダウンしたときに迅速に復旧することの重要性は身に染みしています。

実体験として、最近災害による停電の体験があります。そのときの停電は日が暮れても続き、電灯がつかず、テレビも電源が入らない、真っ暗で心細い中、携帯電話は電池が残っていて使えました。家の外と通信ができ、さまざまな情報が入ってくるのが心の救いになりました。

あ那时候、携帯電話がつながらなくなっていたら、不安で眠ることもできなかったでしょう。携帯電話で情報を入手することができたので、これ以上の災害の危険性がないことを知り、安心して眠れました。普段当たり前につながっている携帯電話でも、いざというときには人に大きな安心感を与えるものだと実感しました。

私がこれまで培ってきた設備保全の知識・経験は大きく2つあり、「設備をダウンさせないこと」と「ダウンしたときの復旧を迅速に行うこと」です。設備をダウンさせないことは、多くの人々を安心させることができます。設備がダウンしたときの復旧を迅速に行うことは、多くの人が不安を感じる時間を短くすることができます。どちらも、仕事を通じて社会に安心感を与えることができると考えています。

2つ目について、貴社が地域に根差した経営をされている点に注目しています。

私は、この度転職するにあたって、福岡に根差して働きたいと考えています。福岡は私の生まれ育った地域です。新卒の就職で今まで関東圏で仕事をしてきました。大都会での仕事は、とても身になりました。苦しいことや辛いことはたくさんありましたが、その分技術力も経験もたくさん身に着けました。しかし、住むことでしかその地域に貢献できないことがあるのも知りました。

その点について、貴社は伝統の祭りに対し毎年必ず協賛しており、社員が祭りに参加することも積極的に勧めています。また、事業の方も、地元の大学と共同研究を行っています。そのほか、地元の工業高校から必ず採用するなど、地域貢献を進めています。

地域貢献に関する貴社と私の考え方がとても近く、強く惹かれているところです。

また、事業拠点が福岡にしかないので、目の前の仕事に正対して腰を落ち着いた取り組みができると考えています。今までのように数年に一度の転勤が前提の仕事だと、成果も責任も次の担当者に引き継いで転勤ということがよくあります。

例えば、数年間取り組んできたプロジェクトが、やっと実を結んでもう少しで成果が出るというときに、その成果を他人に引き継いで転勤ということがあると、しばらく仕事へのモチベーションが下がることもありました。反対に、何年か取り組んできたものの成果が出ず行き詰ってしまった仕事を次の担当に引き継いで、肩の荷が下りたと安堵したこともあります。

貴社では、このようなことはなく自ら手掛けた仕事は最後まで責任を持って完遂し、仕事を通じた喜びと苦しみで技術者としての飛躍ができるものと考えています。

3つ目について、通信設備に強いことを生かした遠隔監視・データ解析システムの開発に、将来中心となれるように関わっていきたいと考えています。

現職は主に電力関係の設備保全ですが、計算機システムに関連する仕事も若干あります。学生時代より計算機システムが好きで、積極的に学んできました。現職では計算機システムが事業の中心にないため、計算機システムの業務が発生したときは、好機ととらえて率先して取り組んできました。

これまで計算機システムの業務は私にとって仕事の中心ではなく、経験数が少ないです。しかし、今後の業務で計算機システムに触れることになれば、知識が経験に裏付けられ確かに技術力につながれると考えています。将来的に、貴社の新規事業分野の開拓である、遠隔監視・データ解析システムの開発の中心になれるように力を尽くしたいと思います。